



知って選ぼう！

パッシブファンドとアクティブファンド

いよいよ来年から新NISAが始まります。そこで投資信託を購入する際、特に株式に投資するファンドについては、大きな選択肢として「パッシブファンド」「アクティブファンド」に分かれます。両者の違いを踏まえた上で、銘柄を選んでみてはいかがでしょうか。

<POINT>

- 運用手法の違い
- それぞれのメリット・デメリットは？
- どちらを選べばいい？

パッシブ運用とアクティブ運用

【パッシブ運用】

- パッシブ (passive) は消極的・受動的といった意味です。運用担当者は投資判断を行わず、対象とする**株価指数 (インデックス) に連動**する運用成果を目指します。通常は**市場全体の値動き**を示す指数を対象とするため、**市場の平均的なリターンを目指す**運用と言えます。
- 投資信託においては、日本株ではTOPIXや日経平均株価、米国株ではS&P500指数などに連動するよう運用する商品 (インデックスファンド) が一般的です。

【アクティブ運用】

- アクティブ (active) は積極的・能動的といった意味です。運用担当者が組み入れる銘柄を選定し、**ベンチマーク** (比較基準、TOPIXなど市場全体の値動きを示す株価指数 ÷ 市場平均) **を上回るリターンを目指す**のが一般的です。
- インデックスファンド以外の投資信託はおおむねアクティブファンドと言えます。組入銘柄に特段決まりのないタイプ、**配当重視**や**中小型株**など**スタイルを定めるタイプ**、特定の投資テーマに沿った銘柄を組み入れる**テーマ型**など、さまざまなタイプがあります。

	パッシブ	アクティブ
運用目標	市場全体 (平均) に連動することを目指す	市場平均 (ベンチマーク) を上回ることを目指す
投資信託の商品の例	<ul style="list-style-type: none"> ・TOPIX連動型 ・日経平均連動型 ・S&P500指数連動型 	<ul style="list-style-type: none"> ・「好配当」「中小型株」など特定の運用スタイル ・「テクノロジー」「ヘルスケア」といったテーマ型 ・スタイルやテーマを決めず運用するタイプ

※上記は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。



それぞれのメリット・デメリットは？

運用手法によるメリット・デメリット

- パッシブ型・アクティブ型の主なメリット・デメリットは以下のとおりです。

	メリット	デメリット
パッシブ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市場平均(連動対象指数)並みのリターンを得ることが期待できる ・ 低コストの運用が可能(信託報酬が安い)^(※1) ・ 価格変動が理解しやすい(指数どおり) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市場平均以上のリターンは得られない ・ 指数採用銘柄であれば業績不振企業や株価が割高な企業も機械的に組み入れる(一般的な指数は投資判断を伴わない)
アクティブ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平均より高いリターンを得られる可能性がある ・ 運用担当者が銘柄を選別して投資する ・ 指数に採用されていない有望な銘柄も投資対象となる^(※2) ・ 購入する人が自分の好みの投資スタイルや投資対象などを選ぶことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ リターンが市場平均を下回る可能性もある ・ 企業調査・銘柄選定にコストがかかる(通常、信託報酬がパッシブ型より高い)^(※1)

※1: 調査・銘柄選定などのコストは信託報酬に含まれており、別途発生する訳ではありません。公表される基準価額は信託報酬控除後であり、コストを含めた運用の優劣は基準価額の動きで比較できます。

※2: 国内上場企業約4,000社のうち、TOPIX採用銘柄は半数強、日経平均は225銘柄のみです。

どちらを選べばよいのでしょうか？

自分の考えに合った投資を

- **一概にどちらが優れているとは言えません**。かつてはパッシブが優位とされたこともありましたが、近年は**アクティブを見直す機運**もあり、金融庁もその意義を認めています。
- 特に**日本の株式市場**では、TOPIX採用銘柄のうち2社以上のアナリスト予想が提示されている銘柄が半分未満にとどまる[※]など、**リサーチが行き届いていない**ため多くの情報が株価に織り込まれておらず、**アクティブ運用のチャンスが大きい**という指摘もあります。
(※QUICKデータより、ちばぎんアセットマネジメント調べ)
- **アクティブ運用が常にベンチマークを上回**ることは難しく、**当たり外れもある**ため、**ほぼ「外れ」のないパッシブ型**は投資信託に投資する際の有力な選択肢となっています。
- **アクティブファンド**に投資する際には、**共感できる投資スタイル**や**運用ポリシー**のファンドを選ぶほか、**パッシブファンドと併せ持つ**という選択肢もあるでしょう。

※上記は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

- 本資料はちばぎんアセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。
- 本資料に掲載されている当社の意見ならびに予測は資料作成時点のものであり、予告なしに変更することがあります。また、本資料は当社が信頼できると考える情報源から得た各種データなどに基づいて作成されていますが、その情報の正確性および完全性について当社が保証するものではありません。本資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを示唆あるいは保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなされるようお願いいたします。
- 本資料に指数・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。